

— ソディックの原点 —

ソディックグループは、
「創造」「実行」「苦勞・克服」の精神をもとに、
お客様へ最高の価値を提供し、
「未来を創る」企業として社会の持続的な発展に貢献します

— 新理念体系 —



2026年8月、ソディックは設立50周年という大きな節目を迎えます。この節目にあたり、50周年のテーマ「Grow Forward in the Next Era —新たな時代の中でさらなる成長へ—」を掲げました。この言葉は、当社の原点とこれまで培ってきた技術力、価値観を大切にしながら、社会や産業構造が大きく転換する時代の中で、モノづくりの高度化・精密化・効率化へのニーズに応えつつ進化を続け、次の時代を切り拓いていくという私たちの決意を表明しています。

そして、決意を具体的な行動につなげ、次の50年に向けてめざす姿をより明確にするため、新たな理念体系 (Purpose、Mission、Vision、Value) を制定しました。グローバル全社員がこれらを指針に、共通の価値観のもとで挑戦を続けていきます。



ソディックは設立50周年を迎えました。 新たな時代の中で さらなる成長へと進みます。

ソディックは、2026年8月に設立50周年を迎えることとなりました。これもひとえに、50年支えてくださったお客様、パートナー企業、株主・投資家の皆様のおかげであり、さらに、過去、現在の従業員や経営陣たちが景気の谷を幾度も乗り切り、会社を守り抜いてくれたおかげです。先人たちの「創造」「実行」「苦勞・克服」が、ソディックを次の50年のステップへと進むための土台を築いてくれたのだと心から感謝しております。

ソディックという会社は、1976年に創業者の古川利彦が仲間たちとともに横浜に設立したのが始まりです。数年前までは設立当初の従業員が残っていたのですが、今は皆さん退職され、現在は第2世代以降の従業員が在職しています。先日、第44回の代理店会議があり、そこには当社がまだベンチャー企業だった頃をよく知る方々もおられました。私自身は入社して30年近くになりましたが、当社に関わるほぼ全ての人たちが、「ソディックは世の中のあらゆるモノづくりに関わる人たちの願いを叶えるために機械を作ってきた」という創業者の想いをとてもよく理解し

ています。かつてはブラウン管だったテレビは薄型大画面になり、携帯電話からスマートフォンに変わり、自動車はハイブリッドや電子化と進化していく中で、ソディックはその時々のお客様が作りたいたもの、世の中が求めるモノづくりを実現し、また、それを通じて自社の技術を磨き、競争力を高めてきたのです。それは50年変わらないことで、これからも決して変わることはないでしょう。

当社が創業する少し前までは、世の中にあった放電加工機はまだかなり粗削りの機械で、とても精密加工に使えるものではありませんでした。ソディックは世界で初めて、数値制御ができるNC装置付き形彫り放電加工機を開発し、誰もが複雑、精密な加工ができるようになりました。そして、日本の金型産業のお客様だけでなく海外のお客様にも販売を始め、生産についてもタイ、中国へと次々に進出しました。その時代の最高精度の機械を追求するため、まだ世の中になかった材料や技術は自社で開発、製造してきました。この間に生まれたセラミックスやリニアモーターなどは現在も当社のコアテクノロジーとなっています。また、当社の機械は超精密加工を実現しながら、機械そのものの劣化がほとんど生じないことも大きな優位性の一つです。

2000年代以降は超精密加工分野に特化し、ナノマシンの開発等を進めてきましたが、その中で「EXC100L」という最高精度のワイヤ放電加工機が完成しました。光ファイバーのコネクタの金型製造に適した機械でしたが、当時はニッチな領域という位置づけだったため、日本の一部のお客様に導入されただけで販売台数はまったく伸びませんでした。それが20年以上経った現在、世界各地のお客様の関心を集め、受注が殺到しています。我々ソディックが市場に先がけて超精密加工の技術基盤を完成させていたことで、ビッグデータ、AIの時代が本格的に到来した今、たくさんのお客様が求める超精密加工の機械を直ちに提供することができるのです。ほかにも、航空・宇宙、メディカルなどの先端領域のお客様からの当社の高付加価値製品への引き合いが増加しており、まさにソディックが世界最先端のモノづくりをリードしていることが実感できます。

私たちソディックは50周年を節目に新たなフェーズに乗りたいという想いで、この10年、ビジネスモデルと組織の改革を続けてきました。2023年からの構造改革を皮切りに為替や市場の変動に強い事業体制づくりを行っており、これと我々の技術の強みをもってすれば、次の50年もお客様が求める未来のモノづくりに貢献できると自信を持っています。それに加えて、坏社長のもと、新たにオペレーション改革や組織力強化に取り組んでおり、ソディックという会社はまだ強くなると思っています。

創業者から受け継がれた精神は変わることはありませんが、今後も変えるべきところは変えながら組織をレベルアップさせ、世界のモノづくりにとって不可欠な企業であり続けたいと思っています。そして、ソディックが収益力と資本効率の向上を実現して企業価値を向上していくことが株主・投資家の皆様をはじめ、全てのステークホルダーにとって最善であると考えています。これからも引き続き、ご支援のほどお願いしたいと思います。

代表取締役会長

古川 健一